

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 6 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	4091100034
法人名	株式会社 サニーライフ
事業所名	グループホーム 柳河内
所在地	福岡市南区柳河内2-6-57 〒815-0063 (電話) 092-562-3007

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年6月10日	評定確定日	平成21年7月6日

【情報提供票より】(平成 21 年 5 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 7 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	17 人	常勤	16 人	非常勤	1 人	常勤換算	15.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての～	1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有() 円	○ 無		
保証金の有無(一時金を含む)	有() 円	有の場合償却の有無	有	無
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり	1,300 円程度		

(4) 利用者の概要(5 月 15 日現在)

登録人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・かなざわクリニック ・やまの歯科医院 ・アンプル歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地し、寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく過ごせるホームを目指して開設された。ホーム内は、利用者が外出した際のスナップ写真や季節感を取り入れた装飾品が飾られ、ゆとりにも包まれた生活環境を醸し出している。「家庭的であたたかく和やかな雰囲気のもと、楽しく安らぎのある自立した生活が送れるよう支援していく」の理念のもと、本当の家族のように支え合い、常に寄り添ったケアの提供に努めている。利用者が行きつけの美容室に外出するなど、利用者一人ひとりの立場に立ち、希望や楽しみごとを汲み取りながら、ゆとりのある生活を過ごせるように支援している。地域行事の参加はもとより、利用者が地域の清掃などに参加したり、近隣の保育園児との交流や高校生によるホームでの演奏会が催されるなど、自然に地域に溶け込んでいる事が伺える。今後の発展が大いに期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へはスタッフ会議時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、理念の作成や研修が積極的に行われるなどの具体的な成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認し、改善点について具体的に検討するなど質の向上に向けてのレベルアップを図るなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族などの参加により、2ヶ月毎に開催されている。運営推進会議では、ホームの活動状況についての報告や地域包括支援センター職員より成年後見制度についての説明が行われ、家族から衣替えについての要望がみられるなど、会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時の声かけや運営推進会議時などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。2ヶ月に1度ホーム通信を送付し、活動状況や行事報告、行事案内などについて写真を掲載して報告を行うなどの取組みがある。敬老会などのホーム行事を通じて、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。運営推進会議や家族の面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の意見や思いの表出に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の回覧板を通じて、近隣の保育園の七夕会や地域の清掃活動へ参加したり、ホームにて高校の吹奏楽演奏や地域のボランティアによる尺八の演奏会などを通じて、地域との交流の機会を積極的に捉え、地域とのかかわりを意識した取組みがある。日々の散歩時の声かけや挨拶など、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受けて、職員全員で理念を見直 し、ホーム独自の理念や目標をつくりあげている。「地 域の中で楽しく安らぎのある自立した生活を送れるよ う支援する」という理念を掲げ、これを目標に日々の 業務に積極的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	リビング内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。 毎日業務前に唱和したり、業務の合間に常に理念に 立ち戻り、確認している。日々の業務の中で職員間で 理念と照らし合わせて検討したり、月1回のスタッフ会 議時に理念に基づいたケアの内容について協議する など、理念の実践に向けた取組みがある。運営推進 会議時に理念について説明を行っている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の回覧板を通じて、近隣の保育園の七夕会や 地域の清掃活動へ参加したり、ホームにて高校の吹 奏楽演奏や地域のボランティアによる尺八の演奏会 などを通じて、地域との交流の機会を積極的に捉える 取組みがある。日々の散歩時の声かけや挨拶など、 自然な形で地域交流への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へはスタッフ会議時に改善についての協 議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程 で、理念の作成や研修が積極的に行われるなどの具 体的な成果が見られる。今回の受審にあたり、職員 全員で評価項目の内容を確認し、改善点について具 体的に検討するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族などの参加により、2ヶ月毎に開催している。運営推進会議では、ホームの活動状況についての報告や地域包括支援センター職員より成年後見制度についての説明が行われ、家族から衣替えについての要望がみられるなど、会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携や生活相談員による訪問、利用者との交流など、市町村との連携への取り組みがある。地域包括支援センター職員より成年後見制度についての勉強会を行ったり、ホーム行事への見学がみられるなど、行政との連携を図りながら質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が、外部研修に参加し、スタッフ会議にて受講報告会や勉強会を行うなど、職員全体で制度について学ぶ取り組みがある。運営推進会議時に、地域包括支援センター職員による制度の概要や利用手順についての説明を行うなど、行政と連携し、制度の理解を図る取り組みがある。全家族に資料を送付し、活用に向けての支援を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや運営推進会議時などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。2ヶ月に1度ホーム通信を送付し、活動状況や行事報告、行事案内などについて写真を掲載して報告を行うなどの取り組みがある。遠方の家族には、必要に応じて、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを手紙や電話で個別に伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会などのホーム行事を通じて、家族との交流を深めながら、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。運営推進会議や家族の面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の意見や思いを汲み取っている。出された要望や意見については、内容に応じてその場での回答や申し送りなどで話し合い、ケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から職員全体のコミュニケーションを図り、自由に話し合える関係づくりに努めている。毎月合同で行事や外出の支援を行うなど、常にユニット間の交流を深め、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。新しい職員が入職した際は、1ヶ月程度は日中のみの勤務とし、リーダーが見守りながら指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関して、年齢や性別等による制限はない。ホーム通信やレクリエーション、ちぎり絵など、職員一人ひとりの特技や趣味を活かし、利用者とともに楽しみながらやりがいを持って生き生きと勤務していけるように支援している。レク委員会や環境委員会など、各委員会の運営を担当職員に行ってもらい、自主的に活動する工夫がみられる。外部研修や資格取得を目指す職員に対しては、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ会議にて高齢者の人権や身体拘束などをテーマとした勉強会や認知症の対応についての受講報告会を行うなど、職員間で人権について学び、人権意識を喚起する取組みがある。日々のケアを通じて、人権尊重や高齢者の尊厳について管理者が指導を行っている。</p>	○	<p>高齢者の人権に留まらない幅広いテーマや視点を取り入れたさまざまな学習や行政の出前講座などを通じて、全職員がさらなる人権への理解を深められることを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は案内を回覧して参加を募ったり、研修内容や職員の経験などを考慮し、管理者が参加を促すなどの取組みがある。毎月の勉強会にて研修報告を行い、職員全体で知識の共有に努めるなどの取組みがある。外部研修については、勤務調整を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の同業者や通所介護事業者との情報交換や意見交換を頻繁に行なっている。毎月地域の同業者とのふれあい会に管理者が参加し、他事業者との意見交換や交流が図られ、徘徊について事業所間で話し合うなど、サービスの質の向上に向けた取組みがある。現在は、管理者同士の交流が主であり、職員間の交流はこれからの課題である。</p>	○	<p>地域の同業者とのふれあい会に管理者が参加し、他事業者と徘徊についての話し合いが行われ、利用者、管理者間での交流が積極的に図られています。今後、様々な同業者と交流する機会を通じて、職員間の情報交換や交流を図り、更なる質の向上に向けての取組みを期待します。</p>


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	数回の面談による聞取りやホーム見学、体験利用などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応している。入居前に職員全員で心身状況等の情報を共有し、入居直後は、家族への面会をお願いし、利用者への頻繁な声かけやかかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者寄り添い、話を傾聴するなど、家族のような関係づくりに取り組んでいる。日常の中でのかかわりを通じて、昔の話や生活の知恵など、様々なことを学ぶ機会がある。利用者が自然と職員にねぎらいや感謝の言葉をかけたり、利用者同士も互いに気遣う様子が見受けられ、お互いを尊重し、支え合いながら過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族面会時、運営推進会議などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。利用者との日々のかかわりを通じて、利用者の何気ない言葉や行動、表情などから利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、毎月のスタッフ会議時に職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した生活歴や本人・家族の意向および日常のかかわりの中で把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画書の原案を作成し、職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。また、センター方式の一部を活用し、対応について具体的に記録するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申し送り時に本人の状況や対応などの情報交換や共有を行っている。3ヶ月及び状態変化の際は、スタッフ会議時に全職員にて利用者や家族の意向の確認が行われ、ケアについての手順や変更内容についての見直し検討、再作成を行うなどの取り組みがある。日々の介護記録に利用者の状態やプランの実践結果について記録を行っている。	○	日々の申し送りなどを通じて、職員間で情報や意見交換が行われています。心身状況の変化の有無に関わらず、月に1度程度は新鮮な観点から、本人や家族の意向や状況を確認し、職員間で情報や意見を交換し合う機会の確保などの取り組みを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による月2回の往診や連携支援、家族対応が困難な際のかかりつけ医への通院介助、利用者の要望に応じたいきつけの美容室への外出支援など、利用者の状況や家族の要望に応じて柔軟に対応している。運営推進会議時に地域の歯科医師より口腔ケアについてのセミナーを開催する取り組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援している。ホーム協力医との連携により、月2回の往診やホーム職員の看護師による利用者の状態把握及び状態に応じて協力病院への受診の支援がある。かかりつけ医への受診については、家族対応が困難な場合は、ホームにて支援するなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化や終末期におけるホームの方針について説明している。日常の何気ない会話を通じて、利用者・家族の意向や希望を把握し支援を行うなどの取り組みがある。状況の変化に伴い、その都度家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有していく取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、日々のケアやミーティング時に言葉遣いや対応 について管理者が指導を行うなど、職員の意識の向 上を図る取り組みがある。介護計画書に利用者に応じ た声かけについて記載し、タイミングを見計らってのさ りげない声かけや笑顔で傾聴するなど、利用者のプ ライバシーに配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者ごとの生活リズムに配慮し、そのときどきの 気持ちや利用者の体調を考慮しながら、決して無理 強いせず、食事や入浴のタイミング、食事のペースな ど、利用者一人ひとりのペースや意思を尊重し支援し ている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	野菜の下ごしらえや料理の盛りつけ、食器洗い、 テーブル拭きなど、利用者一人ひとりができる範囲で 協力しながら行うなどの取り組みがある。利用者と職員 と一緒にテーブルを囲み、何気ない声かけを行いな がら食事を勧めたり、食器を入れ替えるなど、和やか な雰囲気の中で、ゆったりと食事を楽しめるような取 組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	一日おきに入浴を行っているが、毎日の入浴や夕 食後の入浴も行っており、利用者の体調に配慮しな がら、希望に応じて柔軟に対応している。入浴の順番 や回数など、利用者一人ひとりがゆっくりと入浴を楽 しめるように支援している。入浴が苦手な利用者には、 入浴時間をずらしたり、声かけを工夫するなど、快 く入浴できるような支援がみられる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	家庭菜園での種まきや水やり、テーブル拭き、洗濯 物たたみ、食器洗いなど、利用者一人ひとりの役割等 が自然にできており、利用者の出来ることや生活歴な どを把握した上での支援がある。散歩や童謡などを 歌ったり、行きつけの美容室を利用するなど、日常の かかわりの中で利用者の楽しみごとを把握した上 での働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月1回以上、博物館見学や観劇、野球観戦、花見、 動物園、植物園など、定期的な外出を行うほか、日常 生活での散歩や地域の清掃への参加など、外出への 支援を積極的に行っている。個別の希望に沿って、少 人数での買い物や喫茶店の利用、外食、行きつけの 美容室への外出など、利用者の状況に応じてできる だけ戸外に出かける支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関は常時施錠されているが、中庭や利用者の居 室の開き戸は開錠されており、自由に入出りできる。 運営推進会議やスタッフ会議で協議し、全職員が施 錠の弊害を理解した上で可能な限り開錠に向けて取 組んでいる。職員は利用者の様子をきめ細かく観察 しており、外出傾向が強い利用者には、さりげなく声 をかけるなど、利用者の安全面への配慮がある。	○	現在、段階的に開錠に向けての取組みが行われて います。利用者の状況の変化に伴って、施錠を常態 化することなく、施錠することから考えられる弊害に ついての理解を深め、利用者の尊厳を保ちつつ安全 な生活を営むための解決策を検討し、少しずつ鍵を かけないケアへの取組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に1回の消防署の指導による避難訓練、月に1度 の自主訓練を行い、利用者と一緒に避難場所や避難 経路の確認、消火器の使い方などの確認が行われて いる。運営推進会議時や地域の広報誌に避難訓練 の日時を掲載し、避難訓練に地域住民の参加をよび かけるなど、地域の協力体制を得るための働きかけ がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスに配慮したメニューを参考に一日1400 kcalを目安にホームにて調理し、利用者の体調に応 じてお粥やきざみ食にするなどの工夫がある。利用者 毎に毎回の食事量の記録などを行い、水分摂取量が 少ない利用者へは、頻繁な声かけを行うなど、栄養摂 取や水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入り口やリビングに季節の花や植物がさりげ なく活けてあり、季節を肌で感じる心和む空間となっ ている。リビングには、季節を意識した装飾やちぎり 絵などの手作りの品々が飾られ、外出時や行事のス ナップ写真が数多く見受けられるなど、アットホームで 心和ませる家庭的な雰囲気を醸し出している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、寝具やタンス、鏡台、テレビ、調度品、家 族の写真などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち 込まれており、安心して居心地良く過ごすための工夫 や配慮がみられた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号